

高良武久先生の思い出

藍沢 鎮雄（神奈川病院）

高良先生は卒寿を迎えられてもたいへんお元気で、不老不死の仙人のように思えた。かつて興生院で森田療法を研修し、先生の身近で薫陶をうけた門下生たちが集まって、小人数の祝賀会を開いた。平成元年一月のことである。興生院の魅力の一つは、先生と昼食を共にしながら、先生の談論風発するお話を聴くことであった。話題は歴史、哲学、文学、音楽、美術などの芸術分野から、はては当時のアイドル歌手のゴシップにいたるまで、まるで底なしの宝庫から手品のように取り出されてきた。卒寿のお祝いの席も興生院の昼食を再現するような雰囲気は漂っていたが、もっとも心に残ったのは、先生が御挨拶で卒寿の心境に触れられた一節である。

「長い間精神医学にたずさわりまして、変り者を一生涯たくさん見ておりまして、それでだんだんに私を感じますのは、あたり前の人間であれば、これは非常に有難いことだとおもうようになりました。……私もようやくこの歳になってあたり前になったんじゃないかという風に思いますが、ところが、このあたり前というのはなかなかむずかしいものであります」

* * * * *

先生の御逝去は平成八年五月である。数年前から肺の悪性腫瘍が発見されていた。御臨終に付き添った方のお話では、全身にたくさんの管を刺されておられたが、ある夜それを引き抜こうとなさり、静かに「もう、いいよ」とおっしゃったという。

興生院で行われた密葬の情景は心に刻まれている。庭の樹木が巨きくなって、興生院は鬱蒼たる森と化していた。生前、先生がお好きだったモーツァルトが流れる中を、懐かしい庭を一回りした。夕暮れの薄暗い樹間から、ただ無に還っただけだよ、という先生の淡々とした声が聞こえてくるように思えた。

そこが今、精神障害者復帰施設として再生している。

予 告

来年の春の講演会は、慈恵医大で高良先生をささえていた野村章恒先生の特集になります。森田評伝をかかれたときの苦労などを中心に、関係者のお話をうかがいます。次の年には、もう一人の竹山恒寿教授を取り上げたいと考えています。

秋の特別企画
うつと中高年の森田療法を考える

—森田療法の誕生と展開をめぐって—
於：就労センター「街」（元興生院）3F

講演と体験談

(参加費:1000円)

11月6日(土) 14:00~16:00

講演「うつと森田療法」 近藤喬一先生(光洋クリニック)

体験談「中高年の生きなおしと森田療法」 司会 北西憲二先生(日本女子大学)

発表者 白塚 博(活年の会)
川井 綾子(リフレッシュ)
宮崎 朗(夢を語ろう会)

秋の講演会は、森田療法の広がりを探ります。現在、うつ病の時代といえるほどにうつ病に悩む人がふえています。森田療法が、うつ病の人に、どのように役立つかをうつ病のセルフヘルプグループのアドバイザーである近藤先生が語ります。

後半は、「生活の発見会」のなかでも、中高年の人たちが活躍をしている3つの会から、代表者が体験発表をいたします。熟年の時代に森田療法がどう役立つか、北西先生の司会とコメントで進めていきます。

高良先生のビデオ上映と森田療法による相談

(参加費:無料)

11月2日(火) 15:00~16:00 ビデオ「高良先生と岡本先生の体験談」

5日(金) 15:00~16:30 ビデオ「生活の発見会」 相談 増野 肇

高良武久先生が生前に録画された、「生活の発見会」の新春懇話会のビデオです。岡本メンタルヘルス財団の岡本理事長の体験談もあります。「生活の発見会」は、お馴染みの比嘉先生が熱演する森田療法シリーズです。

ビデオのあとには、森田療法に関する相談や質問に増野肇がお答えいたします。

1、昨年の座談会「森田療法において興生院が果たした役割」は、たいへん好評でしたが、岡本財団の援助により、小冊子として発行することになりました。参加できなかった方にも、その時の熱気を感じ取っていただけたと思います。今年、講演会も引き続き小冊子にしますので期待してください。

2、設立時に御寄付をいただいた基金を基に、図書資料室の充実をはかります。

中村古峯の「変態心理」の復刻版全巻を揃えました。「神経質」全巻を揃え、森田先生の日記のコピーも揃えます。その他にも、森田療法の研究に必要なものがあれば申し出てください。また、お手持ちの森田関係の著書の寄贈もお願いいたします。